

海運〈経営・全般〉

2020年10月12日

<DIGITAL×Shipping>

「船と海の未来つくる」実証実験

e 5 ラボ、業界の枠を超え22社・1団体と豊洲沖で

船舶の電動化（EV化）・デジタル化を通じて海運業や社会の課題解決に挑む e 5 ラボは、11月に東京・豊洲沖で海運・海事産業だけでなく、業界の枠を超えた幅広い企業・団体と連携し、大規模な実証実験を行う。9日発表した。

e 5 ラボは「業界の抱える課題をビジネスで解決しチャンスに変える価値共創プラットフォーム」として、「ROBOSHIP（ロボシップ）価値共創プロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトの一環で、22社・1団体と実証実験を行う。

参加するのは、旭タンカー、ウフル、エクセノヤマミズ、関西電力、観光汽船興業、ClimaCell、商船三井、ソフトバンク、ダイキンMRエンジニアリング、ダイヘン、東京海上日動火災保険、東京電力エナジーパートナー、東芝エネルギーシステムズ、ナカシマプロペラ、日本海事協会、野村アセットマネジメント、古野電気、Marine X、三井不動産、三菱商事、三菱重工業、三菱造船、プライムプラネットエネルギー&ソリューションズ。海事産業のみならず、通信、エネルギー、不動産など幅広い分野の企業が参集する。

今回の実証実験は、「どんなフネと海の未来が創れるだろうか？」をテーマとして「ミライのフネのカタチ」を探るものになる。観光船を用いて、次世代デジタルナビゲーションや船舶向けOS、都市とのエネルギー連携、AIや自律技術を活用した船舶運航などについて実験する。

「ROBOSHIP価値共創プロジェクト」は、業界の枠を超えた価値共創、技術を使った新しい事業と価値を創出、他産業への大きな波及効果—の3つの価値をつくりだすことを目指す。さまざまな分野の企業が集い、技術やアイデア、ネットワークを掛け合わせて新たな価値を生み出す。また、技術開発を起点とするのではなく、プロジェクト参加者がつくりたい「未来」を設定し、それを実現するために必要な技術とアイデアで新しい価値と事業を創出する。

e 5 ラボは「現在、22社・1団体との活動の中で、海運・海事産業の未来構想、フネ・海を起点とした陸上のエネルギー革命、通信・AIを活かしたデジタルトランスフォーメーション（DX）、EV船を起点とした新規事業創出など、さまざまなプロジェクトが生まれており、今後はこれまで以上に協業のスピードを上げ、さらには各社のリソースの相互利用、人材交流などを行い、価値と事業の共創を実現していく」としている。

e 5 ラボは旭タンカー、エクセノヤマミズ、商船三井、三菱商事が出資し、パートナー企業とともに、海運業が抱える課題解決のためのソリューションを提供する。

> ■実証実験の概要

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.